



境内の一角にある
無縁仏の塚



仏法領

ぶつぽうりょう

第101号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ

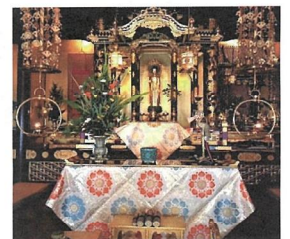
町犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org



「昭和、平成、令和を

生き抜いた母」

母はいつも「食べ物のことで、ケンカしなさんな」と優しく言っていた。「一つしかないものは、半分づつにして、食べなさい」。これも、母の口癖だった。

物のない時代に、幼少期を過ごしたせいか、兄弟姉妹で食べ物を分け合いながら、生きてきたのだろうか。

家族のように、譲り合いながら、与え合いながら暮らせば、喧嘩や戦争は起こらない。国内外を問わず、明日の食べ物を心配せずに、暮らせることを心から望んでいる。

(写真・文 大迫光浩)



戦後80年

第2次世界大戦では日本人だけで300万人以上、日本による戦争がもたらしたアジアの犠牲者は2000万人を超えと言われている(毎日新聞)。「あの戦争」はそれほどの大きな出来事であった。

戦後80年になる今年、日本がどうして戦争をしたのか。侵略戦争であったのか、自衛の戦争であったのか、立場によって見方が違っている。しかし、私たち庶民にとつての現実、戦時下、戦後の、日々の暮らしであつたに違いない。

念信寺の境内には戦没者の墓碑があり、大切な人を失った衝撃がこの墓碑という形になっているのだろう。今では世代も変わり、花が手向けられるのも稀になっている。悲しみは時代と共に忘れ去られてゆくのだろうか。

病氣や事故での死を受け容れることも容易でないが、まして戦争での死をどのように受け止めるのか。国によつて「英霊」と顕彰されたけれど、それで済ますには事柄が大きく、また遺族の心情を思うと複雑だ。私もその辺がすっきりしないまままだかまっているの、折りがあれば門徒さんにその経験をそつと聞くようにしている。

あなたはどのように戦争を体験しましたか？あなたにとつて「戦争」は何を意味していますか？

戦争で夫を亡くした方達が報恩講の際の幔幕を寄付してくださった。その方達も今は居られないが、悲しみを背負いながら何十年も過ごしてきたことへの感謝の念があつたのだろうか。わだかまりを飲み込んで生きていく力強さと深さがあつたように思う。

日本が大きな曲がり角に立っている今日、先人の思いを尋ねつつ歩まねばならない。

南無阿弥陀仏





新総代の紹介

上高屋地区・総代に渡辺
裕治さんが就任いたしました。

7月5日の世話人会議で上高屋の

Wさんが選任されました。

Wさんは昭和33年7月生まれ、日産自動車に長く勤め、現在は退職して1町4反歩近くの田圃で米作りに励んでおられます。

「十分できるか分からないけど、一生懸命いたしますので、宜しくお願いします」とご本人の弁。



4男1女のお子さんをご夫婦で協力して育てられ、今はそれぞれ社会人になり活躍されています。

お父様の Wさんも総代をしていただき、御正忌にはご夫婦で正装してお参りいただきました。

戦争を知らない私の思い

よしだあきかず
吉田昭和(北九州市小倉北区)

終戦から二年後に生まれた私は実際の戦争を体験していないので、戦争については両親やマスメディアからの情報のみである。従って、私が戦争に感じ、思っている事は、実際に戦争の悲惨さや苦しみ等を経験した人達には遠く及ばないと思う。

世界では今も戦争が行われ、多くの民間人、とくに幼い子供達が犠牲になり、これからの人生を亡くしている。

その原因は国の政治の主導権を掌握している政治家の悪癖である。自己の利益の駆け引きに戦争を利用しているのしか思えない。特に異常と思えるのは、

世界の国々の指導的立場であるべき大國の指導者達が、自己的で、自國第一主義的考えを持っている事である。従って、仲裁を行う指導者も心の内では自國または自己の利益のみを考えた行動をとっているのしか思えない人は私

だけではないと思う。幸いな事に、我が國は今の段階では戦争に直面してはいないが、誤った指導者が今後出てくれば解らない。今の日本は多党化政治になっている。悪い意味では強い指導者がいないのである。決して



誤った大國の指導者の餌食にならない為の指導者を選ばなくてはならない。その為に多くの人が選挙に参加し、自分の意見を出すことが重要と思う。

自論を述べ過ぎたので、最後に父との戦争の思い出を述べたい。父は海軍技術将校であった為、非常に厳格で自分に厳しい人であった。私の小学校入学式二日前の夜の出来事である。父に呼ばれ、父母の前に正座をさせられ、「前は明後日から学生になる。今迄とは違う。頭を坊主にしなさい」と言われ、それ以来高校を卒業する迄ずっと坊主であった。



お参りの日々

村上 宣 (念信寺若院)

お盆も終わり、今年も残すところ4カ月となりました。

私は平成9年生まれで、

「戦争」の苛烈さとは無縁の、平和な時代を生きてきました。学校の平和学習も、既に「実際に経験した人の話」から「資料学習」へと移り変わる時期で、リアルな話を聞く機会というのは、本当に少なかったと思います。

そんな私達の世代ですが、悲しくも「リアルな戦争」に触れる事になりました。それが「ロシアによるウクライナへの侵攻」でした。未だ終わる様子の見えない隣国ロシアの戦争こそが、私達の世代の知る「リアルな戦争」になったのです。

2022年3月にSNS上で、とあるニュースが流れました。「ロシアの将軍が演説中にウクライナのスナイパーに射殺された」という内容でした。

2月下旬にロシアからの侵攻という形で始まった戦争で、正確な情報の乏しい中でのセンセーショナルなニュース記事に、



様々な反応がおこっています。中でも、私が衝撃を受けたのは、スナイパーへの多くの賞賛の声でした。

ロシアとウクライナの戦争は、仕掛けた側が明確で、ロシアが敵役の構図なのは明白です。しかし、それは国の責任者の問題であり、その命令に従わ



される人々の罪とは言い切れないように私には思えました。

ましてや、当事者ではなく、平和な場所から見ているだけの傍観者という立ち位置の私達に、どちらの国へも肩入れした感情を向ける謂れはないと思つたのです。常日頃は「命を大事に」と言うその口で、命を奪う行為へ賞賛を送ることの気味の悪さを感じた出来事でした。

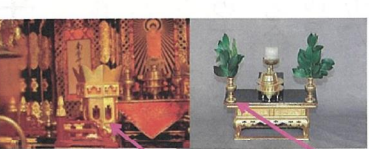
日本でも起きたそれは、今は隣国で起き、またいつアジアで起こるかも知れません。嫌悪し否定をして遠ざけても、相手がその気になれば「それは起こります。私にとって「戦争」とは、「突然に命が曖昧なものになる」ということなのだと思います。

残暑も厳しいですが、体調を崩さぬようお気を付けください。

お内仏のお飾り

「本尊の前には三具足(花瓶・香炉・燭台)をお備えします。それ以外に大切な仏具があります。「名前は何?」「何に使うの?」という質問の多い仏具を紹介します。

華瓶(けびょう) 水を供える器。花ではなく、櫛や青葉を挿します。



供荷(くげ) 普段は使用せず、法事やお彼岸、報恩講などの行事の時に小餅もしくは落雁を盛ります。一対、両方に置きます。

井核非戦決議2025

戦後50年を経た1995年6月、真宗大谷派は、自らの罪責を懺悔し人類の願いを「不戦の誓い」として表明しました。

「不戦決議」

私たちは過去において、大日本帝国の名の下に、世界の人々、とりわけアジア諸国の人たちに、言語に絶する惨禍をもたらし、佛法の名を借りて、将来ある青年たちを死地に赴かしめ、言いしれぬ苦難を強いたことを、深く懺悔するものであります。

この懺悔の思念を旨として、私たちは、人間のいのちを軽んじ、他を抹殺して愧じることのない、すべての戦闘行為を否定し、さらに賜った信心の智慧をもって、宗門が犯した罪責を検証し、これらの惨事を未然に防止する努力を惜しまないことを決意して、ここに「不戦の誓い」を表明するものであります。

さらに私たちは、かつて安穩なる世を願い、四海同朋への慈しみを説いたために、非国民とされ、宗門からさえ見捨てられた人々に対し、心からなる許しを乞うとともに、今日世界各地において不戦平和への願いに促されて、その実現に身を捧げておられるあらゆる心ある人々に、深甚の敬意を表するものであります。

私たちは、民族・言語・文化・宗教の相違を越えて、戦争を許さない、豊かで平和な国際社会の建設にむけて、すべての人々と歩みをとることを誓うものであります。

右、決議いたします。

1995年6月13日 真宗大谷派 宗議会議員一同
1995年6月15日 真宗大谷派 参議会議員一同

真宗大谷派の戦争責任

1987年、「戦没者追弔会」という本山での法要が「全戦没者追弔法会」と改称されました。当時、私は名前を変えただけのように思い、そこに大切な動きがあることを知りませんでした。今回、「戦後80年」を寺報で取りあげようと大谷派の取り組みを少し調べてみました。

大谷派の「不戦決議」や、毎年に出される「井核非戦決議」を『同朋新聞』などでご覧になった方もおられるでしょう。私はなんとなくポーゾだけのようにしか思っていませんでした。しかし、それは考え違いでした。

1981年（昭和56年）、教団は新たに「真宗大谷派宗憲」を出して、そこから宗門の近代史を検証する取り組みが始まっていました。1987年の法要の改称は、教団が明治以来どのように戦争協力をしてきたのか自己点検をしてきた営みの成果でした。

「全戦没者追弔法会」への名前の変更と共に、宗務総長が真宗大谷派としての戦争の責任を表明し、そのことに対する謝罪をしたのです。それがアジアの人々をも含めた「全戦没者」の意味でした。しかしそれは当時の古賀宗務総長個人の表明でした。それから7年後1995年、宗門の名において議会で全員一致で決議されたのが、ここに記載した「不戦決議」です。

この決議は一部のラジカルな運動家の主張によつてなされたものではなく、仏教々団の責任においてなされたものであり、私に戦争にどう向き合うのかを問うものでした。

今回、寺報で「戦争」を取りあげるには、門徒さんには教団のこの表明をお知らせしておかねばならないと考えました。



皆作法要

2025年7月5(土)、6日(旦)午後

講師 舟川智也先生（行橋市阿徳寺住職）



本願力にあいぬれば
むなしくすぎるひとぞなき

功徳の宝海みちみちて 煩惱の濁水へ
だてなし

親鸞様が残してくださったご和讃の中でも、ことに有名なご和讃であります。この本願力、阿弥陀様のご本願の心、そしてそのはたらきに出会ったものというのは、むなしくこの人生は終わっていかないよということを親鸞様が



本願とは何かといったら、阿弥陀様の願いのことです。「必ず救う我に任せよ」という阿弥陀様の願いのことを「本願」と言います。私たちはその阿弥陀様の本願の心聞いていく宗教です。

しかし、大方の人は仏様に向き合うとき、仏様の願いを聞こうとしてるでしようかね。反対じゃないですか。私の願いを仏様に聞いてもらおうと思つてね、お寺に行く人の方がはるかに多いんじゃないですかね。

大分県の宇佐市のお医者さん田畑正久先生がこんなことをおっしゃっていました。

「人間とは欲望の満足を求めて生き

るものである。しかし、欲望はついに満足を知らない。私が仏教に出会って与えられたのは、欲望の満足ではなく、存在の満足だった。私は私でよかったと、この命を心から喜べるようになったのは、仏教に出会ったおかげでありました」と。

田畑先生がおっしゃる存在の満足とは一体何でありましょうか。

テレビのワイドショーを見ていましたら、こんな話をしていました。世界中の子どもたちに聞いてみた。あなたは自分の命を価値ある命と思つてあるかと。アメリカの子たちは64%が「はい」と答えました。お隣、韓国の子たちは20%が「はい」と答えました。日本は6%つていうんですよ。悲惨な数字が出てきたわけです。

結局のところ人は自分自身の能力が高いから、この命に価値が与えられるんじゃないです。私のことを思ってくれる存在に出会えるから、私たちはこの命を喜んでいくことができる。そんな中に私たちは仏様の願いを聞かせていただくんです。これだけ私のことを思ってくださいの方がここにおるんだ。そのことを通して私自身の命を喜べるようになるから。だから仏様の願いを私たちは聞かせていただくんです。

（7月5日法話抄録）



秋のお彼岸法要のご案内

今夏は猛暑でまだまだ暑い日が続きました。皆さまいかがお過ごしですか？

さて、秋のお彼岸法要を左記のように勤めます。どうぞ、お参り下さいますようご案内いたします。

合掌

記

一、日時 九月二十七日(土)、二十八日(日)の二日間

一、講師 瓜生 崇 先生
うりゆう たかし

滋賀県東近江市 玄照寺住職
響流書房代表



期日	法座	屋席	地区ごとのお参り予定お願い
9月27日(土)	午後1時30分	上本庄・燈畑・上高屋・他地区※	
28日(日)	午後1時30分	伊良原・横瀬・上木井・下木井・大丸・内垣・下本庄・松坂・他地区※	

※他地区とは、豊津・築上・行橋・苅田・田川・北九州等です。

世話人会議報告

皆作世話人会議

日時

2025年7月5日(土) 正午12時より

出席者

世話人13名 責役・総代3名、住坊若3名

議題

・本堂屋根修復について

・本山納金・報恩講お斎他

・本年度の本山納金は

4,000円。秋彼岸に納めていただくことになりました。宜しくお願い致します。



7/11 犀川女性門徒の会研修



8/2 仏具おみがき



7月末 墓園掃除

お寺の活動

法座予定

二〇二五年

●ご正忌・報恩講

十一月二十一日(金)

二十三日(日) 予定

講師 未定

二〇二六年

●春彼岸法要

三月二十六日(木)、二十七日(金)

北嶋文雄・筑前町光蓮寺住職

●皆作・永代経法要

六月二十七日(土)、二十八日(日)

舟川宏顕・行橋市両徳寺前住職



8/5 京都組会 於真念寺



8/27 二十八日講



7/16推進員前期



9/4推進員 宣誓



8/16 盆踊り



8/16盆踊りアフター



8/25 教務所長巡回 於浄喜寺



9/3推進員 上山



8/16 盆法座

本堂大屋根修復

9月現在のアンケート状況を報告致します。今後の取り組みは検討委員会を通じて世話人会等にご報告相談いたします。

●世話人さんを通じて120軒

(内回答93)

●一軒門徒52軒 (依頼回答のみ)

1,397万円(納入予定金額)

●既に現金で納入いただいた方13名

(一軒門徒11名)

372万円

以上



あとがき

今年のお盆も忙しかった。若院家が帰ってきて法務は随分楽になったが、仕事は捗らない。前号にも書いたが、体力気力の衰えを感じている。

とくに念信寺以外の京都組の取り組みに追われて忙しかった。「はじめての親鸞講座」(前期3回、後期2泊3日京都上山)はハードな日程であった。取り返しは、若手の住職達を中心に荷負ってくれた。残念だったのは、念信寺門徒の参加者が前期のみ参加で2名しかいなかったことである。

念信寺の場合、明らかに様々な行事に参加していただけの方が激減している。呼びかける以前に参加可能な人数そのものが、高齢化と核家族化で減少している。

犀川二十八日講も終わる可能性が出てきた。各地区代表の役員さんが集まらず役員構成が難しいなら、閉じるのもやむを得ないとのこと。

このような状況だからこそ、工夫して力を合わせて存続しなければならないと思う。

今号は「戦後80年」で戦争をテーマにした。わだかまっていたことを巻頭に書かせていただいた。少し掘り下げると、3面の「大谷派の戦争責任」に突き当たった。目を通していただけると、幸いです。

